アルフォンス・ミュシャ展

八王子市
夢美術館
EXHIBITION

4/7(金)～6/4(日) 10:00～19:00(ただし、入館は18:30まで)※月曜休館

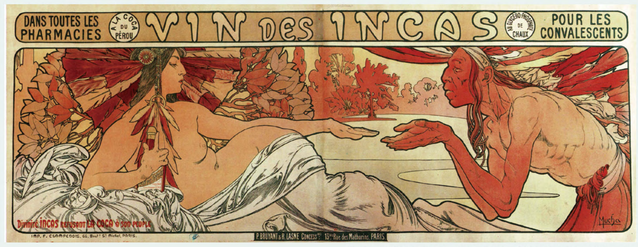
【料金】一般 800円　学生・65歳以上 400円　※中学生以下無料　※ラ♪ラ♪ラ友の会会員は2割引

※全作品撮影可能です。
三脚・自撮り棒・フラッシュは使用不可。

19世紀末パリ、ベル・エポック(美しき時代)を彩り、アール・ヌーヴォーを牽引したアルフォンス・ミュシャ。本展では華やかなポスター、装飾パネルをはじめ、故郷チェコに尽くした晩年までの作品、400点余りをご紹介します。

《スラヴ叙事詩展》 1928年　OGATAコレクション

星シリーズ四連作より 《月》《宵の明星》《北極星》《明けの明星》 1902年　OGATAコレクション



《インカのワイン》 1897年　OGATAコレクション

《夜明け》 1899年　OGATAコレクション

みどころ

ミュシャはパリの美術学校で教鞭をとっていたころ、デザインを学ぶ学生のために『装飾資料集』と『装飾人物集』2冊の図案集を出版しました。ここには植物、人物、活字、家具、装飾品などミュシャのデザインによる図柄が収録されています。本展ではこの2冊の図案集の全ページを展示しています。デザイン系の勉強をされている方にも、ぜひご覧いただければと思います。

右:《装飾資料集》PL 21　1902年　OGATAコレクション

連載
夢美術館収蔵品のおはなし

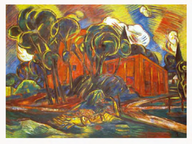
八王子市夢美術館の収蔵作品をご紹介します。

大野五郎　晩年の画境《静か、しづかなりや山の里》 2004年　油彩

大野五郎は1910年に現在の東京都北区に生まれ、1979年から2006年に96歳で没するまでを八王子で過ごした洋画家です。

左の作品は、94歳の年に描かれた最晩年の作品です。多めの溶き油で薄めた絵具を用いて描き、部分的に白い画布(キャンバス地)がそのまま活かされている箇所もあります。特に画面右下に注目すれば、棚田か溜め池と思われる水面がわずかな筆触で表現されており、画家の優れた技量が感じられます。山村に流れる静かな時間を山脈(やまなみ)の大胆な構図と繊細な筆遣いで表しました。

大野五郎の画風は20世紀初頭にフランスで興ったフォーヴィスム(野獣派)と呼ばれる美術運動に影響を受けており、その特徴を太い輪郭線や赤や緑の原色の多用に見ることができます(右下:参考図版参照)。70歳を迎えたころから、ごく薄塗りの明るい画風に変化し、おおらかで軽やかな画境を開きました。



(参考図版)大野五郎《赤と緑の風物》 1955年　油彩

八王子市夢美術館(八王子市八日町8-1 ビュータワー八王子2F)　TEL:042-621-6777　FAX:042-621-6776　【ホームページ】https://www.yumebi.com

#お仕事ファイル

財団のお仕事をご紹介！

File 7　市民センター職員

「地域の皆さんの"元気"を応援するパワースポットでありたい！」

市民センタースタッフのある1日

8:30 出勤・開館の準備
9:00 午前の施設貸出スタート！
10:00 施設申込抽選・当選連絡
施設空き状況の更新
12:00 午前の利用終了の手続き
利用後のお部屋をチェック

交代でお昼休憩！

13:00 午後の施設貸出スタート！
館内や周辺の巡回・清掃
町内会イベント等の相談
15:45 夜間のスタッフに引継ぎ
16:15 退勤！

市民センターでは、住民協議会の図書部の皆さんが、館内の図書室を運営してくれています！

八王子市内には18の市民センターがあります。市内の町会ごとで実施される様々な催し物のお手伝いをする施設でもあります。施設には小さな子どもから大人まで、幅広い年代の方々が様々な目的で訪れるため、体育館や和室、図書室と多くのお部屋が備わっています。市民センターの職員は窓口でお客様をお迎えして施設の貸出の準備等をしておりますが、同時に、お客様の折々のご要望に応えるべく、改善のための様々な工夫や努力を重ねています。自ら修理修繕を行うなど、利用者の方々に寄り添いながら、より気持ちよく施設を使えるようにと日々励んでいます。

インタビューしました！

市民センターとはどのような場所ですか？

市民センターは別名コミュニティセンターとも呼ばれ、市民の皆さんに、ご自分たちの思い思いの活動をするためにご利用いただける「開かれた施設」です。様々なハンデを背負った方たちにも積極的にご利用いただいています。

職員は窓口対応だけではないマルチタスクで施設の管理にあたっていますが、コミュニティの活性化とは、言い方を変えると「自ら元気になれる場所の創造」のことかもしれません。市民センターが、市民の皆さんの「元気になろう」という気持ちを応援する場、身近なパワースポットになれたらと心から願います。職員も、皆さんのパワーに負けないように気合を入れてお待ちしています。(台町市民センター職員T)

ラ♪ラ♪ラ voice　財団主催公演の来場者アンケートから、感想をご紹介♪

2/4(土)いちょうホール 大ホール　立春にぎわい寄席

初めての寄席でしたが、とても楽しめました。久しぶりに笑いが止まらなくなり、気が晴れました。前々から観に行こうと思っていたので、今日はとても楽しめました。

2/26(日)南大沢文化会館 主ホール　荘村清志ギター・リサイタルwith藤木大地

ギターの演奏、繊細でとても素敵でした。約50年前にアルハンブラ宮殿を歩いた時の光景を思い出し、水の音も聞こえてきました。歌の選曲も素晴らしく、感動して涙がこぼれました。

はちびと

八王子の文化を支える
まちの人々をご紹介！

特定非営利活動法人小津倶楽部代表理事・
小津町会 会長

前原教久さん

●小津倶楽部をどのように作られてきたのでしょう?

数年来、小津は高齢化・空き家・耕作放棄地などを抱え衰退の危機にありました。なんとかそれに抵抗し町を元気にしようと、私が町会長になったのを機に役員6人・有志と立ち上げたものです。行政の力も借りて東京大学の先生がランドスケープデザイン講座の演習地として使って、様々なアドバイスをいただきました。古民家を再生したり、外にピザ窯や木工所などをレイアウトしたりして、今の形になりました。

●古民家「おもむろ」の名前に込めた思いを聞かせてください。

自分たちが「おもしろおかしく」楽しむ、来られる方の「おもてなし」をし、「おもむき」のある家づくりをして、「おもいやり」や「おもいで」が生まれる場所になるようにと色々な気持ちを込めました。

●普段、どのような活動をされているのでしょうか?

地元はもちろん、八王子の街なかや都心からの参加者もいます。毎週土曜日にコアメンバー15～20人位が集まって、畑・山の管理や木工の作業をやっています。チェーンソーを扱ったりジビエ料理を創ったり、知恵や技を出し合って協力し合ってます。自然と向き合い、仲間と話をしながらマイペースで作業をする土曜日が皆にとって本当に待ち遠しい楽しみの日になっています。

●前原さんと小津倶楽部のモットー、活動のコンセプトは何でしょう?

「ちょうどいい加減」でしょうか。来る者拒まず、去る者追わず、参加の度合いも自由で、皆の居場所になることです。楽しみや安心感をもてる場所。身の丈に合った提案なら何でも受け入れる。むずかしいことを考えず懐を深くして、私も一生続けていきたいです。

『小津倶楽部』とは
豊かな自然環境や営農環境の保全を前提とした空き家、耕作放棄地及び山林などの地域資源の再生事業を通じて、地域交流の拡大と移住・定住の促進による地域活力の向上を図り、新たな文化・ネットワーク・コミュニティを構築することを目的とするNPO法人です。